

〈支援〉を〈成功／失敗〉するための条件とその変容

仁平典宏（法政大学）
nihenori@hosei.ac.jp

*お詫び

タイトルのような大それた話できませんでした

修正タイトル→「東日本大震災以後の私を振り返って」ぐらいで…

1. 〈支援〉とその文体

さらにお詫び：テーマとの距離について

「支援」に関わること

- ・2002年から野宿者支援活動。現在も細々と…
- ・一方で、研究＝フィールドワークという形はほとんどなし

なぜ？

- ・制度・政策・計量など「マクロ」中心
- ・必ずしも、研究上接する相手＝支援の相手ではなかった（ex.ホームレス排除の住民）
- ・文体の習得に難航

〈支援〉について

- ・〈支援者／当事者〉の区別の有意性・・・研究者は支援者の項

※ただし、支援者こそが最大の抑圧者にもなりうる

- ・マクロ系の研究とも「福祉国家化」という規範論的な収斂点を持つ
- ・その中で、〈支援〉、ケアなど固有の問題系…支援の〈成功／失敗〉の基準

マクロでは財・サービスの再分配…ミクロ場面で社会サービス自体が逆機能になりうる
権利代行・翻訳の問題…支援者の位置（手足、頭の場所）

ニーズ／ディマンドの線引き

→マクロレベルにおける福祉削減の条件にも（ex.障害者自立支援法）

権利代行＝抑圧の問題と、研究者の「書く」行為

例えば「当事者の「ニーズ」を的確に記述し社会的な文脈で捉えられることを示しつつ、そのような指し示しが、出来事／当事者を抑圧・領有しないように、その概念・枠組・書き手の立ち位置という営み自体を再帰的に揺るがし続ける」ことを目指した特異な文体の生成

文体の行き先→ リゴリズム、反動としての「マイノリティ憑依」論

例)「若者」支援をめぐるせめぎ合い 古市問題

cf.『イェルサレムのアイヒマン』の *ironic* で *flippant* な語り口 (tone) を巡るアレントとゲルショム・ショーレムのやり取り

別様の文体？

以上の状況認識のもとで、マクロの方にとどまっていた
だが、〈支援〉をめぐる環境は、3.11 以後も同じか？…自分が関わった範囲で

2. 東日本大震災と私

- ・『「ボランティア」の誕生と終焉』出して 10 日後…「終焉」どころではない。
- ・距離が取れない／無力感と苛立ち
- ・いくつかの立場：研究者／ボランティアセンター長／教員／ボランティア／家族

○「研究者」として①

- ・陸前高田市との関わり：4 大学連合チーム
- ・行政文書の保存
- ・避難所調査（昨年 6 月）
→ 報告書作成。避難所、議会・市にフィードバック
- ・全ての仮設住宅団地の自治会長さんへの聞き取り（昨年 8～9 月）
→ 各自治会長に報告会（昨年 10～12 月）
→ 集落ごとの住民ワークショップ（昨年 10～12 月）
→ 高台集団移転の支援（昨年 10 月～）

高台集団移転の支援

- ・制度利用支援
- ・住民の側に立って、行政批判
→ 「住民」とは誰か？
誰かの〈支援〉が誰かの不利益になり得る構造
ややこしいが、3.11 以前も

○「研究者」として②

- 3.11 でボランティア・NPO はどう動いたか？
ボランティアの「停滞」問題
現地に入れぬ苛立ち→社協・行政のせいにする議論の横行
＝阪神淡路大震災のパラダイム
→これ自体、その後のネオリベラリズムの中で失効

むしろ、ボランティアの不調、東北の疲弊、障害者の被災率の高さを、全て共通の枠で考
えるべきではないか…福祉国家化（社会保障制度拡張）の視角＝3.11 以前と同じ
→仁平典宏 2012 「〈災間〉の思考—繰り返す 3・11 の日付のために」赤坂憲雄・小熊英二
編『「辺境」からはじまる -東京／東北論-』明石書店

○キャンパスのボラセン長として

- ・学生からの動き・企画を重視
- ・〈他者のニーズ〉について
- ・7 月以降 緊急→復興フェイズという転換の中で
- ・被災地出身の一人の学生が休学し、現地でボランティア活動&ニーズ把握して活動開始
→しかし、誰の「ニーズ」だったのか？

①被災児童館での遊び支援

形としては児童館からの要請「子どものため」

子ども？

ストレスを溜めさせない

津波遊びをさせない→フラッシュバックの危険

子どものニーズの翻訳／代行（パターナリズム）という問題系だけではない

「未来の他者」のニーズ

→教育の支援ではおなじみの問題。だが、「非常事態」ということで、翻訳／代行に対する批判的反省は作動しにくい空気 →検証が必要

②写真洗浄

・「家族が喜んでくれるから」？

・「ニーズ」からスタートしない支援

→アレント的な意味での〈世界〉への支援

= 「忘却の穴」を塞ぐ可能性に賭ける投瓶的行為

いずれも、通常の〈支援〉からずれる？

支援対象は「不在の他者」？

ただし、福祉国家化のプロジェクト内

「3.11以後」という話ではない

3. 除染ボランティアと福祉国家の臨界

・除染ボランティア…二つの文書

- ・ 福島に寄り添う円卓会議「除染作業への参加を考えているボランティアの方に知ってもらいたいこと」
- ・ 猪飼周平「原発震災に対する支援とは何か」

・線形比例＝「閾値無し」の含意…瓦礫の広域処理も同型

<二つの再分配モデル>

福祉国家…財・サービスの再分配＝生のチャンスの再分配

グラフは非線形→逓減によりパレート最適ではないことが前提

3.11以後…リスクの再分配＝確率論的な死の再分配

グラフは線形

何が支援の成功／失敗かの基準の不可知化